

千鳥橋病院

内科専門医研修プログラム〈ダイジェスト版〉

2018年8月

千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会

【内科専攻医へのメッセージ】

千鳥橋病院内科専門研修プログラムは、地域の総合病院を主たる研修の場としています。内科系各領域の専門医にも共通に必要な総合性、地域のニーズに寄り添い努力する姿勢を身に着けることを重視して、多職種専門職、各領域の専門医の積極的な参加を得て標準的で安全な診療を実践する内科医を養成します。WHOのネットワークであるHPH（健康増進活動拠点病院）の日本における最初の認定病院として、国際社会で通用する豊かな人権意識と社会性を有しつつ、健康の社会的決定要因に目を向けて地域社会・住民と患者と医療従事者に対するヘルスプロモーションを実践する内科医を養成します。専門領域へ進む前にまずは「The 総合内科医」としての力と構えを身につけたい人、地域住民の一番近くで活躍する内科医を将来像に描く人を募集します。



1. 千鳥橋病院プログラムの特徴・概要

① 専攻医の環境

- ・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。
- ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
- ・常勤医師として労務環境が保障されている。
- ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、「こころの相談室」および臨床心理士設置している。
- ・ハラスメント委員会が整備されている。
- ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
- ・病院敷地内院内保育所があり、利用可能である。

② プログラムの環境

- ・指導医は8名在籍している。
- ・千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者、内科研修委員長、ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている内科研修委員会との連携を図る。
- ・専攻医の日常的な状況把握とプログラム運営に関わる内科研修委員会(事務局的役割)を設置する。

- ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2017年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- ・研修施設群合同カンファレンスを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- ・CPC を定期的で開催（内科系 2017 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- ・地域参加型カンファレンス、在宅カンファレンス、臨床倫理 4 分割法カンファなどを定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的保障を行う。
- ・日本専門医機構による施設実地調査に千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会が対応する。
- ・特別連携施設（大楠診療所、たたらリハビリテーション病院、上戸町病院）の専門研修では、テレビ会議システムなども利用した千鳥橋病院でのカンファレンス・面談などにより、指導医がその施設での研修指導を行う。



③ 診療経験の環境

- ・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
- ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できる。
- ・専門研修に必要な剖検（内科系 2017 年度実績 7 体、2016 年度実績 10 体）を行っている。

④ 学術活動の環境

- ・臨床研究に必要な図書室を整備している。
- ・倫理委員会を設置し、定期的で開催している。
- ・千鳥橋病院学術支援センターによる臨床研究に関する学習会を開催している。
- ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 6 演題）をしている。

⑤ 指導医数・内科系専門医数

- ・内科指導医 8 名
- ・日本内科学会総合内科専門医 7 名
- ・日本消化器病学会消化器専門医 3 名、
- ・日本循環器学会循環器専門医 4 名
- ・日本神経学会専門医 3 名ほか

⑥ 外来・入院患者数

- ・総入院患者(実数) 6,050 名(年間)
- ・総外来患者(実数) 114,653 名(年間)

⑦ 経験できる疾患群

きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができる。

表. 千鳥橋病院内科系診療実績（2017 年入院患者実数）

	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急科	合計
入院患者実数	576	815	166	87	206	741	44	237	60	56	215	1041	4244

⑧ 経験できる技術・技能

技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができる。

⑨ 経験できる地域医療・診療連携

福岡県福岡・糸島医療圏の中心的な福岡市の急性期・亜急性期医療を担い、急性期病棟、地域包括ケア病棟・回復期リハビリ病棟を有する病院であり、地域の医療・介護・福祉連携の中核的な病院である。超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験、高次病院や地域病院との病病連携や診療所との病診連携を経験できる。

⑩ 学会認定施設(内科系)

- ・日本内科学会認定医制度教育病院
 - ・日本循環器学会循環器専門医研修施設
 - ・日本心血管インターベンション学会研修関連施設
 - ・日本脳卒中学会認定研修教育病院
 - ・日本呼吸器学会認定関連施設
 - ・日本神経学会専門医制度准教育施設
 - ・日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 家庭医療後期研修プログラム Ver2
 - ・日本透析医学会専門医制度認定関連施設
 - ・日本腎臓学会専門医制度研修施設
 - ・日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連施設
 - ・日本消化器内視鏡学会認定指導施設
 - ・日本病理学会認定病院
 - ・日本リハビリテーション医学会研修施設
- など

2. 指導医体制千鳥橋病院プログラムの特徴・概要

山本 一視 (統括責任者、内科指導医)
 有馬 泰治 (内科研修委員長、内科指導医)
 豊田 文俊 (循環器分野責任者、内科指導医)
 川野 紀子 (消化器分野責任者)
 寺井 明日香 (腎臓・透析分野責任者、内科指導医)
 中司 貴大 (救急分野責任者)
 江島 泰志 (神経内科分野責任者 内科指導医)
 春口 誠治 (内分泌・代謝分野責任者 内科指導医)

連携施設担当委員

大手町病院 山口 征啓 (内科指導医)
 米の山病院 崎山 博司 (内科指導医)
 沖縄協同病院 喜久本 朝善 (内科指導医)
 大分健生病院 今里 幸実 (内科指導医)

特別連携施設担当委員

上戸町病院 近藤 慶
 たたらりハビリテーション病院 平田 済
 千鳥橋病院附属大楠診療所 佐藤 渉

3. 千鳥橋病院内科専門研修施設群

<千鳥橋病院内科専門研修プログラム (ローテート例) >

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医 1年目	基幹施設総合内科病棟						基幹施設内科ローテート 循環器/HCU					
	内科一般外来/救急外来/慢性疾患管理予約外来/訪問診療											
専攻医 2年目	連携施設 大手町病院 (救急・感染症)			特別連携施設 たたらりハビリテーション病院			特別連携施設 大楠診療所					
	内科一般外来/救急外来/慢性疾患管理予約外来/訪問診療											
専攻医 3年目	基幹施設内科ローテート 消化器/腎臓・透析/呼吸器											
	内科一般外来/救急外来/慢性疾患管理予約外来/訪問診療											

- 千鳥橋病院は、福岡市の急性期病院であるとともに、地域包括ケア・回復期リハの病棟を持つ亜急性期も担う病院である。そこでの研修は、地域の第一線医療機関の診療経験を研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
- 連携施設・特別連携施設は、内科専攻医の多様な希望・将来像に対応し、また、専攻医のより深めたい分野・ニーズに配慮して、特定領域の急性期医療、亜急性期医療および患者の生活に根ざした

地域医療を経験できることを目的に、千鳥橋病院と同規模で地域の中心的な急性期病院である健和会大手町病院、親仁会米の山病院、沖縄協同病院、大分健生病院、および地域密着型病院であるたたらリハビリテーション病院、上戸町病院、より地域に密着して地域医療を展開している千鳥橋病院附属大楠診療所で構成している。千鳥橋病院と同規模の急性期病院では、異なる地域と医療機能の環境で、地域の第一線医療機関の診療経験をより深く研修する。

- ・地域密着型病院と診療所では、より地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。
- ・基幹施設である千鳥橋病院で2年間、連携施設および特別連携施設で1年間、計3年間の専門研修を行なう。連携施設と特別連携施設の選択・調整は、専攻医の希望や将来像、研修到達の評価なども踏まえて行う。
- ・地域医療に関する研修計画として、外来診療のみならず訪問在宅診療も必須であり、ふくおか家庭医療学センターが開催する定期的な地域参加型カンファレンスなど、地域医療に関する研修は本プログラムの主眼でもあり十分研修される。



※なお、専攻医の希望と研修到達度によっては **Subspecialty** 研修を位置づけることも可能である。

当プログラム修了前に、特定の **subspecialty** 領域に固定した研修内容を選択する場合は、①病歴提出資格である45群120疾患の登録が済んでいること、②のこり期間で29病歴要約の提出の見込みが明確であること、③他の修了要件を満たすことが確実であること④外来、在宅訪問診療などの当院のプログラム上の必須事項を継続することを条件に3年目以降に可能とする。

<千鳥橋病院内科専門研修施設群研修施設の概要>

	病院・診療所	病床数	内科系 病床数	内科系 診療科数	内科 指導医数	総合内科 指導医数	内科 剖検数
基幹施設	千鳥橋病院	350	259	6	8	7	7
連携施設	大手町病院	527	145	2	5	4	10
連携施設	米の山病院	219	96	8	6	4	5
連携施設	沖縄協同病院	280	120	6	6	5	10
連携施設	大分健生病院	130	100	5	1	1	1
特別連携施設	上戸町病院	104	60	1	0	0	0
特別連携施設	たたらリハビリ テーション病院	213	213	1	0	1	0
特別連携施設	大楠診療所	0	0	1	1	1	0

4. 千鳥橋病院内科専門研修 週間スケジュール (例)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
午前		心電図学習会	心電図学習会 呼吸器抄読会	症例検討会		日当直 病棟診療 救急外来 講習会・学会 など	
	病棟 入院患者診療	一般内科外来 慢性疾患管理予 約外来	救急外来	総合内科病棟回 診・カンファ	検査 超音波・内視鏡 など		
午後	訪問診療	総合内科スタッ フカンファ 入院患者診療	後期研修医回 診・カンファ 入院患者診療	入院患者診療	病棟 入院患者診療		
	担当患者の病態に応じた診療／オンコール／当直など						
	家庭医抄読会		医局会議／ MC・CPC				

★千鳥橋病院内科専門研修プログラムに従い、週間スケジュールを調整する。

- ・日当直やオンコールなどは、病院全体もしくは **Subspecialty** 領域の診療科の当番として担当する。
- ・地域参加型カンファレンス、臨床倫理4分割カンファ、講習会、CPC、学会などは各々の開催日に参加する。

5. 募集専攻医数および募集・採用の方法

- ・千鳥橋病院内科専門研修プログラムの募集専攻医数は1学年4名とする。
- ・千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会は、毎年7月から説明会等を行ない、内科専攻医を募集する。翌年度のプログラムへの応募者は、11月31日までに千鳥橋病院のホームページの医師募集要項に従って応募する。
- ・原則として11月中に書類選考および面接を行い、千鳥橋病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。

問い合わせ先：千鳥橋病院医局事務部

E-mail ch-igakusei@fid.jp

HP <https://www.chidoribashi-hp.or.jp/>

- ・千鳥橋病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく専攻医登録評価システム (J-OSLER) の登録を行う。